



## 11.糖尿病センター関連

臨床評価指標項目	2019(平成 31/令和元)年度	2020(令和 2)年度	2021(令和 3)年度
糖尿病	471	365	347
内分泌疾患	190	124	158
糖尿病緊急症	99	88	101

### 解説文

糖尿病センターでは、はじめて糖尿病を指摘された方、これまで糖尿病の治療を受けてこられなかった方、すでに糖尿病の治療を受けていて血糖コントロールが不十分な方を対象に医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士といった多職種で連携した総合的な糖尿病教育入院を行っています。

また1型糖尿病の患者さんの診断、治療についても精力的に取り組んでおります。近年では入院の上、1型糖尿病や糖尿病合併妊娠の方を対象にリアルタイム持続グルコースモニター機能<sup>\*1</sup>を搭載したインスリンポンプ<sup>\*2</sup>であるSAP(Sensor Augmented Pump)療法の導入をしています。昨年度新規にSAP療法を導入した患者さんは7名であり、外来ではSAP療法を行っている患者さんは20名、インスリンポンプ療法を行っている患者さんは22名(内5名はパッチポンプ)通院しています。

2021年度の間脳・下垂体疾患、副腎疾患、甲状腺・副甲状腺疾患、電解質異常など内分泌疾患の入院患者さんは158例となっています。2021年4月内分泌疾患センター開設後、これまで以上に内分泌疾患・治療に取り組んでおります。原発性アルドステロン症などの二次性高血圧症、また副腎腫瘍精査のための内分泌検査入院を行的確な診断に務め、腎泌尿器外科とも連携して最適な治療をできるように努めています。また、脳神経外科とも連携し、間脳・下垂体疾患に対する診断及び術前・術後の機能評価も行っています。さらに、免疫チェックポイント阻害薬による内分泌機能異常にも悪性腫瘍の診療科と連携し、適切な診断、治療を行っています。バセドウ病の外科的治療前の甲状腺機能コントロールを行い、乳腺・内分泌外科と連携し、抗甲状腺薬の副作用や甲状腺クリーゼの症例での安全な甲状腺外科手術施行のための内科的管理も行っています。

さらに、当科は地域での糖尿病緊急症の対応も行っています。糖尿病ケトアシドーシス、高浸透圧高血糖症候群、低血糖といった糖尿病の急性合併症、糖尿病患者さんが感染症に罹患し普段通りに食事が摂取できない状況となるシックデイ時については、かかりつけの患者さんはもちろんのこと、普段は近隣の医療機関に通院されている糖尿病患者さんも当院での緊急入院による治療を行い、退院時にかかりつけ医の先生に逆紹介を行っております。

<sup>\*1</sup>リアルタイム持続グルコースモニター機能

持続グルコースモニターは、皮下に刺した細いセンサーにより皮下の間質液中の糖濃度(間質グルコース値)を持続的に測定することで1日の血糖変動を見ることができます。

その中でもリアルタイム持続グルコースモニター機能とは、常時直近の間質グルコース値が表示され、患者さん自身がリアルタイムに血糖変動を見ることができます。

<sup>\*2</sup>インスリンポンプ

インスリン製剤を持続的に注入できる携帯可能な小型の医療機器です。